

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

平成 25 年度

事業報告書及び決算書

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日



EXPO'90
FOUNDATION

目次

事業報告書

はじめに	1
------	---

I. 事業

1. 顕彰事業	1
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	3
(1) 調査研究、行催事等助成事業	
(2) 花とみどりの復興活動支援事業	
(3) 地域の団体、住民等との協働事業	
3. 普及啓発事業・国際交流事業	7
(1) コスモスセミナーによる次世代育成事業	
(2) 花育推進事業	
(3) 生き物共生まちづくり普及啓発事業	
(4) 「都市緑化推進運動」・「まちづくり月間」に対する協力	
(5) 花の万博開催の地元における普及啓発事業	
(6) その他の普及啓発事業	
(7) 国際交流事業	
4. 調査研究・資料収集事業	11
(1) 生物多様性関連施策の実態と効果等に関する調査	
(2) 里山における共生に関する調査	

II. 庶務・管理

1. 理事会・評議員会等	15
2. 公益財団法人への移行及びその情報公開	16
3. その他	16

決算書

III. 財務諸表

1. 貸借対照表	19
2. 損益計算書（正味財産増減計算書）	21
3. 附属明細書	24
4. 財産目録	31

IV. 監査報告書	35
-----------	----

平成 25 年 度

I. 事 業

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し、発展させることを事業の基本方針として花の万博記念基金を活用し、年次事業計画書に沿って各種事業を行っている。

協会は、平成 25 年 3 月 18 日に内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受け、4 月 1 日に「公益財団法人」に移行した。平成 25 年度は、超長期の債権が一部償還を迎えたが、為替相場が円安に推移したこと等により予算を上回る収入を得られた中、公益法人移行後の初年度として、各種規程の整備を進め、協会の中心的事業である「コスモス国際賞」の実施をはじめ、顕彰事業、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業を滞りなく行った。

I. 事業

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

花の万博の「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の 2013 年（第 21 回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2014 年（第 22 回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

(ア) 2013 年（第 21 回）受賞者の選考等>

- ・平成 25 年 5 月 21 日及び 6 月 8 日に第 1 回、第 2 回選考委員会が開催され、2013 年受賞者選考対象 118 件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・平成 25 年 6 月 24 日に第 3 回選考委員会及び第 1 回賞委員会が開催され、2013 年受賞候補者にロバート・トリート・ペイン博士（アメリカ・ワシントン大学名誉教授）が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、平成 25 年 7 月 30 日開催の第 80 回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、同日、国内外の報道機関に対し、記者発表を実施した。

(イ) 2014 年（第 22 回）受賞者の選考等>

- ・平成 26 年 1 月 28 日に第 2 回賞委員会が開催され、2014 年（第 22 回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。
- ・国内外約 1100 名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2013年（第21回）コスモス賞授賞式及び晩餐会の開催

国内外からの賓客及び招待者約450名の参列のもと、授賞式を開催するとともに、ペイン博士を囲み、賞委員会・協会関係者による晩餐会を行った。

(ア) 授賞式

日 時： 平成25年11月7日（木）午後3時～5時

場 所： いずみホール（大阪市中央区）

出席者： 約400名

(イ) 受賞記念晩餐会

日 時： 平成25年11月7日（木）午後5時30分～7時

場 所： ホテルニューオータニ大阪（大阪市中央区）

出席者： 23名

ウ. 自然と人間との共生フォーラム（受賞者記念講演会）

2013年受賞者ロバート・トリート・ペイン博士による講演会を大阪・東京で開催した。

（詳細別表1のとおり）

（別表1）

		大 阪	東 京
日 時		平成25年11月5日（火） 午後4時～6時	平成25年11月11日（月） 午後4時～6時
場 所		テイジンホール 〔大阪市中央区〕	東京大学弥生講堂 一条ホール 〔東京都文京区〕
講 演	テーマ	「自然と人間との共生」をめざして ～生物多様性、保全およびダイナミックな自然の世界～	
	講師	2013年（第21回）コスモス国際賞受賞者 ロバート・トリート・ペイン博士（ワシントン大学名誉教授）	
次第等		受賞者紹介 武内和彦 （コスモス国際賞選考専門委員会委員 長、東京大学サステイナビリティ学 連携研究機構長・教授） 対談 ロバート・トリート・ペイン博士 長谷川真理子 （総合研究大学院大学教授）	受賞者紹介 武内和彦 （コスモス国際賞選考専門委員会委員 長、東京大学サステイナビリティ学 連携研究機構長・教授） 対談 ロバート・トリート・ペイン博士 白山義久 （（独）海洋研究開発機構理事）
参加者		約200名	約250名
共催		—	東京都教育委員会（東京開催）
後援		農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館、 大阪府（大阪開催）、大阪市（大阪開催）	

(2) B I Eコスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的なPRのため、平成19年度よりBIE(博覧会国際事務局(本部パリ))が行う「BIEコスモス賞」に参画、支援している。平成25年度は、次回の授賞が予定されているミラノ万博での実施をBIEと調整した。

(3) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第23回(2013年)花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：2,187件

入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ24点

表彰式：開催日 平成25年10月31日(木)

場 所 学士会館(東京都千代田区)

2. 助成・協働事業

(1) 調査研究、行催事等助成事業

花の万博の理念の継承、発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援する助成事業を次のとおり実施した。

ア. 平成25年度は、平成24年度に決定した20団体(詳細別表2のとおり)に対し助成を行うと共に、平成26年度の助成公募等を行った。

イ. 助成事業審査委員会を設け、応募のあった助成対象団体の審査を行った。

(ア) 公募及び審査

公募期間：平成25年8月1日(木)～9月17日(火)

応募総数：77件

審査期間：平成25年10月～平成25年12月

(イ) 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は理事長に答申され、その後、理事長より第81回理事会に報告、助成対象20件を決定した。

(別表2)

	助成対象事業名	助成対象団体名
調査 研究 開発	夕張岳における防鹿柵を用いたエゾシカ被害対策	ユウパニコザクラの会
	ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究	東京大学大学院理学系研究科附属日光植物園生態学チーム
	日本産シダ植物分布状況変遷のモニタリング調査	日本シダの会
	JAPANESE HORTICULTURE の刊行	JAPANESE HORTICULTURE刊行準備委員会
	金華山島のニホンジカの出生・生残のモニタリング	NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ
	本州中部の希少地形に成立する群落の保全生態学的研究	信大自然史研究会
	屋久島における人と自然の関係史と保全状況の市民調査	屋久島まるごと保全協会
活 動 ・ 行 催 事	白神山地世界遺産登録20周年記念セミナーと写真展の開催事業	特定非営利活動法人白神山地を守る会
	福島っ子応援みどりの宅配便平成25年度推進事業	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会
	野生絶滅種コシガヤホシクサ野生復帰活動事業	特定非営利活動法人 アクアキャンブ
	自治医科大学とちぎ子ども医療センター園芸活動	自治医科大学とちぎ子ども医療センター花咲jii
	北上南部の自然を活用するための現地見学会の実施	特定非営利活動法人山の自然学クラブ
	植樹を通じ、自然を学ぶ日	特色のある緑の公園を造る会
	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然探検～	公益財団法人金沢子ども科学財団
	京都の希少な山野草等の継続的な栽培体制の確立と普及	公益財団法人京都市都市緑化協会
	大和葛城山の希少動植物の保護活動	大和葛城山の自然を大切にする会
	六甲山大学 ミントサロンMIDORI塾	六甲山大学実行委員会
	里山に自生する山野草の保全と管理	里山の山野草を守る会
	かんべの里周辺における里山の環境をよみがえらせる事業	NPO法人バイオマス総合研究センター
	「自然とひととの共生」にかかわる実践的啓発活動	みやざき自然塾

ウ. 助成事業成果発表会等の開催

過去の助成対象者の中から5団体が事業内容やその成果についての発表を行い、併せて「地域へ広がる花とみどりの力」と題して、徳原真人氏（ガーデンデザイナー）による講演会と、団体と参加者による交流会を開催した。

日 時：平成26年3月21日（祝・金）午後1時30分～7時

場 所：宮崎県農協会館 JA・AZM ホール

参加者：約200名

後 援：農林水産省、国土交通省、宮崎県、宮崎市ほか10団体

(2) 花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動団体の選定及び支援金の提供を行った。

(ア) 公募及び審査

公募期間：平成 25 年 4 月 1 日（月）～平成 26 年 3 月 31 日（月）

審査期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

(イ) 活動団体の決定

復興活動支援事業審査会を設け、支援団体 10 件（詳細別表 3 のとおり）を決定した。

支援総額：2,317,000 円

(別表 3)

ボランティア団体癒しの園芸の会	園芸活動の延長としてのクラフト作り
田の浦ファンクラブ	交流センター周辺を花とみどりがある空間・ハーブガーデンに整備
希望の花いわて 3.11 プロジェクト	市民や環境客が集い憩える花畑づくり
北陸学院大学「よりそいの花プロジェクト」	元居住地の花壇整備事業の支援
ふくしま希望の種プロジェクト	コミュニティ花壇の植栽活動、復興支援講演会の実施
西多摩緊急災害協力会	幼稚園の外構緑化工事
東京農業大学教育後援会	大槌町の林業再生と仮設コミュニティ支援
NPO マリンサポート 青年東北支援隊	コミュニティガーデンによる仮設コミュニティ支援
NPO 法人社叢学会	地域の風景の再生・復興につながる緑のまちづくり支援活動
特定非営利活動法人スマイルシード	鎮守の森の再生

(3) 地域の団体・住民等との協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発に資するため、花の万博の開催地元である大阪をモデル地区として、地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業（詳細別表 4 のとおり）を実施した。

また、この成果を把握し、他地域に展開するため基礎情報を得る検証作業を行った。今後は検証結果を基に、特に効果が高い事業を他地域に広げ、理念継承に資する。

別表4)

事業名称	詳細	事業名	内容
みどりの風を感じる都市支援事業	地域団体、地方自治体と協働したみどりの風の道植樹運動	企業等との連携による事業	鶴見緑地緑のせせらぎ地区での植樹
		緑の一里塚	堺市堺区榎校区、羽曳野市野地区及び駒ヶ谷地区、太子町春日地区
		みどりの風の道近傍民有地緑化	みどりの風の道促進区域植樹協力支援
		コミュニティガーデンづくり	守口市浜町地区、摂津市昭和園地区、門真市島頭地区でコミュニティのための植樹
	シンポジウム・フォーラム等の開催	みどりの風フォーラム	第2回みどりの風フォーラム (詳細：国際交流事業参照)
		市民交流の場づくり	花飾りや緑化、環境保全等を行っている市民団体等の交流の場として「第2回みどりの交流広場」を開催。 日時：平成26年2月11日正午～午後5時30分 場所：花博記念ホール 協力：生き生き地球館 参加者：130名
展示物による普及啓発		前年度製作したジオラマ（風の道大型模型）を展示 日：平成25年7月29日～8月16日 場所：大阪市役所ホール	
花とみどりを活かした賑わい空間支援事業	都市の花飾り等	地方自治体、地域団体と協働で実施する花飾り	御堂筋、大阪高裁・地裁前、竹内街道、大阪市北区中津地区及び扇町地区
		地域の企業、商店街等と協働で実施する花飾り	御堂筋（1企業） 三休橋筋（1店舗）
	地域と連携した普及啓発活動	ミツバチが暮らすみんなで育てる花いっぱいまちづくりプロジェクト	大阪市立中津小学校、扇町小学校が栽培した菜の花を用いて企業や住民による地域の花飾りを実施
都市と自然環境に関する普及啓発事業	植物園と連携したシンポジウムの開催等	公園内イベント協力	フラワー10days in 大阪2013 日：平成25年10月26日～11月4日 場所：大阪府立花の文化園ほか
	高校生を対象としたフォーラム（自然と人間との共生フォーラム）	世界的な知識人を招いてのフォーラム等	コスモス国際賞受賞者を招いて開催 (詳細：自然と人間との共生フォーラム参照)

3. 普及啓発・国際交流事業

(1) コスモスセミナーによる次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、児童を対象に平成6年度から開催しているもので、平成25年度は、屋外での自然観察（フィールド型）セミナー、講師派遣型セミナーを実施した。

また、次世代育成とマスコミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による小・中学校生態園づくりを実施した。

ア. 自然観察セミナー（自然観察教室）

テーマ：「集まれ昆虫好きな子供たち 2013」

開催日：平成25年8月6日（火）～8月8日（木）

場 所：関西学術研究都市 清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」（大阪府四條畷市）

講 師：保田淑郎（大阪府立大学名誉教授）

久留飛克明（箕面公園昆虫館館長）

谷 幸三（晴れの国野生生物研究会会長）

南 尚美（奈良生物研究会）

参加者：近畿圏の小学校4～6年生及び中学校1年生29名

イ. 講師派遣型セミナー（小学校講師派遣）

講師派遣型セミナーを10件実施した。（詳細別表5のとおり）

（別表5）

日 時	テーマ	学校名・参加者	講 師
平成25年 7月3日(水) 午前	鶴見緑地にすむ生き物の種類や生態について	東大阪市菱屋西小学校 (大阪府東大阪市) 小学校3年生44名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成25年 7月11日(木) 5時間目	「自然について」「生命の不思議について」	高槻市立樫田小学校 (大阪府高槻市) 小学校3、4年生18名	長瀬 健二郎 (前天王寺動物園園長)
平成25年 7月12日(金) 4時間目	昆虫の暮らし	守口市立八雲小学校 (大阪府守口市) 小学校3年生59名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成25年 7月17日(水) 3時間目	昆虫の暮らし	大阪市立姫里小学校 (大阪市西淀川区) 小学校3年生71名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成25年 9月26日(木) 5時間目	昆虫の暮らし	堺市立市小学校 (大阪府堺市) 小学校3年生66名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成25年 11月22日(金) 5時間目	「生命」「自然」「命」など	守口市立藤田小学校 (大阪府守口市) 小学校3年生66名	佐藤 洋一郎 (京都産業大学教授)

平成 25 年 11 月 27 日(水) 4 時間目	自然・昆虫	大阪市立難波元町小学校 (大阪市浪速区) 小学校 3 年生 20 名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成 26 年 1 月 28 日(火) 3 時間目	昆虫のくらし	大阪市立榎本小学校 (大阪市鶴見区) 小学校 3 年生 143 名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成 26 年 1 月 28 日(火) 4 時間目	昆虫のくらし	大阪市立榎本小学校 (大阪市鶴見区) 小学校 4 年生 127 名	谷 幸三 (晴れの国野生生物研究会会長)
平成 26 年 2 月 4 日(火) 5 時間目	自然と人とのかかわり	大阪市林寺小学校 (大阪市生野区) 小学校 5、6 年生 30 名	長瀬 健二郎 (前天王寺動物園園長)

ウ. 毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」(プレスネットワークの構築)

生態園を 5 校に設置(詳細別表 6 のとおり)し、生物の観察の様子は毎日新聞紙面や毎日新聞 HP で紹介された。

(別表 6)

実施校	内 容
大阪市立東桃谷小学校(大阪府大阪市)	バタフライガーデンをつくろう
大阪市立新庄小学校(大阪府大阪市)	新庄のオアシス“都会の中の自然”
大阪市立古市小学校(大阪府大阪市)	みんなでつくる原山池
堺市立原山台小学校(大阪府堺市)	淀川と子どもをつなぐ「緑の小道」
尼崎市立武庫庄小学校(兵庫県尼崎市)	いのちのタイムカプセル

(2) 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等の実施などの事業を行った。

(3) 生き物共生まちづくり普及啓発事業

生き物と共生するまちづくりのあり方や、個人の生活と生物多様性の関係性を解説した小冊子を作成、配付した。なお、平成 23 年より 3 箇年の予定で実施した本事業は、「さまざまな生き物を育むまちづくりを」「育てて、食べて、参加しよう」「私たちの身近にある緑と生物共生」の 3 部冊となり、生物多様性の保全に向けての啓発となった。

(4) 「都市緑化推進運動」・「まちづくり月間」に対する協力

「春の都市緑化推進運動期間(4~6月)」および「都市緑化月間(10月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力するとともに、協会事業の紹介パネル等を展示した。

(5) 花の万博開催の地元における普及啓発事業

花の万博を開催した地元において、基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同で実施した。

ア. 大阪都市緑化フェア 2013

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画し、支援した。

また、会場内の出展ブースに協会の事業紹介パネルの展示を行った。

開催日：平成 25 年 10 月 12 日（土）・13 日（日）

場 所：大阪城公園西の丸庭園（大阪府中央区）

来場者：約 23,000 名

主 催：協会、大阪府

イ. はならんまん 2013（※大阪都市緑化フェアと共同開催）

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に支援した。

主 催：大阪府、大阪市

ウ. 第 3 回みどりのまちづくり賞

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした本賞に参画し、会長賞を授与した。

主 催：協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

エ. 公園利用促進広報事業

花と緑の拠点である大阪府営公園（18 箇所）での過ごし方、利用の紹介並びに協会の紹介を盛り込んだ、情報誌（オアフ）3 万 5 千部を産経新聞社とともに作成、配布した。

オ. みどりのネットワーク構築検討事業

みどりのネットワークの構築を進めていく上で、緑地の整備効果についての検証及び効果を把握する調査を支援した。

(6) その他の普及啓発事業

ア. 平成 23 年度より 3 箇年の予定で協力している（公財）古都飛鳥保存財団による飛鳥地方の歴史的景観づくりのための植栽事業を支援した。

イ. 協会ホームページ等の運営・管理

公益法人移行に伴い定款等を掲載したほか、事業の理解促進・普及のために協会ホームページを適宜更新するとともに、ソーシャルネットワーク (facebook) でも積極的に事業紹介を行った。

ウ. 広報・報道活動

新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付したほか、2013年(第21回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判66頁)を作成(1,500部)し、国内外の関係者に配付した。

また、各事業の周知のため、各種チラシ、パンフレット、報告書等を作成し、配布した他、事業毎に東京・大阪の記者クラブに資料を提供し、マス・コミキャラバンを実施した。

エ. 情報等の提供

今後開催が予定されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会のノウハウや情報等の提供を行った。

海外、国、地方自治体—4件、企業及び個人等—8件

オ. その他普及啓発

各種行催事等に協賛・後援・会長賞の交付を行った。(詳細別表7のとおり)

(別表7)

催事名(開催時期)	開催場所	主催	名義
第15回「国際バラとガーデニングショウ」(H25.5.11~5.16)	西武ドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショウ 組織委員会	後援
大阪ばら祭2013 (H25.5.17~5.19)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	(一財)大阪スポーツみどり財団	後援 会長賞
第10回2013周防町通り「はなまつり」 (H25.5.11~5.19)	周防町通り(堺筋~御堂筋) と大阪市立南小学校(大阪 市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
平成25年度大阪府立花の文化園幼児・ 小中学生花の絵画展 (H26.1.5~2.2)	大阪府立花の文化園 イベントホール (河内長野市)	(一社)大阪府みどり公社	後援 会長賞
平成25年度「都市緑化月間」 (H25.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛

はならんまん 2013 (H25. 10. 12～10. 13)	大阪城公園西の丸庭園 (大阪市中央区)	大阪市	協賛 会長賞
第 22 回春雅展 (H26. 3. 21～3. 23)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	(公社) 全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
第 68 回日本おもと名品展 (H25. 12. 14～12. 15)	山形テルサ・イベントホール (山形市)	(公社) 日本おもと協会	後援 会長賞
「淡路夢舞台ラン展 2014」 (H26. 1. 25～3. 9)	兵庫県立淡路夢舞台温室 (兵庫県淡路市)	淡路夢舞台ミュージアムパーク 協働事業体 阪神園芸 (株) 大阪支店	後援

(7) 国際交流事業

海外における都市緑化の先駆的モデルであるシンガポールの実態を理解し、わが国の緑の創造に寄与することを目的に、国立公園庁副長官レオン・チー・チュウ博士を招き、第2回みどりの風フォーラムを開催した。

日 時：平成 26 年 3 月 3 日 (月) 午後 2 時 15 分～5 時 30 分

場 所：大阪産業創造館 (大阪市中央区)

参加者：170 名

共 催：毎日新聞大阪本社

4. 調査研究資料収集事業

(1) 生物多様性関連施策の実態と効果等に関する調査

国や地方自治体が講じた施策や事業の実態を把握し、生物多様性の保全が地域、国土づくりに果たす役割や課題を調査・検討した。今後、新たな生物多様性保全に向けた事業展開を企画、検討する。

(2) 里山における共生に関する調査

生物多様性の宝庫と言われる里山や、そこにつながる都市近郊の緑の再生や整備などの活動等について調査・資料収集を行った。また、岩手県気仙地方を対象に、大学や地元活動団体と連携し、花と緑に関わる伝統文化等に関する調査を行い、復興まちづくりにも役立つ内容として冊子にとりまとめ、配付した。

平成 25 年 度

Ⅱ. 庶 務 ・ 管 理

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

II. 庶務・管理

1. 理事会、評議員会等

(1) 第77回理事会 平成25年4月15日(月)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：コスモス国際賞委員会委員長並びに委員の選任の件

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員から書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(2) 第78回理事会 平成25年6月5日(水)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：平成24年度事業報告及び収支決算の件、定時評議員会の招集の件、基本財産の件、特定資産の件、役員報酬の件、経理規程の改正の件、顧問・参与の委嘱の件

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席なし。監事出席2名。

(3) 第79回理事会 平成25年6月11日(火)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：評議員会の招集に係る決議の目的の追加等の件

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員から書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(4) 第80回理事会 平成25年7月30日(火)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：2013年（第21回）コスモス国際賞の受賞者決定の件

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席なし。監事出席なし。

(5) 第81回理事会 平成26年3月25日(火)

開催場所：東京商工会議所（東京都千代田区）

決議事項：基本財産及び特定資産（増額）の件、寄附金等取扱規程の制定の件、特定資産（寄附）の件、平成25年度収支予算の補正の件、平成26年度資産運用方針書の件、平成26年度事業計画及び収支予算の件、平成26年度助成団体の決定の件、役員報酬の件、諸規程の改正の件、参与の選任の件、助成事業審査委員会委員の選任の件

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席7名、欠席1名。監事出席2名。

(6) 第42回評議員会 平成25年6月28日(金)

開催場所：関西文化サロン（大阪市北区）

決議事項：評議員会の運営規則の件、平成 24 年度事業報告及び収支決算書類の承認の件、評議員の選任の件

出席等：決議に必要な出席評議員の数 7 名、出席 10 名、欠席 3 名。監事出席なし、理事 2 名。

2. 公益財団法人への移行及びその情報公開

公益認定を取得した協会は、平成 25 年 4 月に解散及び設立の登記を行い、公益財団法人に移行した。平成 25 年 6 月に開催した評議会における評議員の一部改選、26 年 3 月に開催した理事会における平成 26 年度事業計画及び収支予算について、それぞれ、行政庁に電子申請による届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会HPにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

公益法人移行の初年度として、平成 25 年度は、定款に定める諸規程等を整備した。

また、第 3 者委員会として従来無かった資産運用管理委員会を設け、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告する体系を構築した。

協会組織は、代表理事 2 名、業務執行理事 1 名の体制のもと、2 部 3 課制 12 名とし、5 月に新たに 1 名を採用した。

平成 25 年 度

Ⅲ. 財 務 諸 表

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

貸借対照表

平成26年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	167,388,710
未収収益	114,566,182
前払金	72,000
流動資産合計	282,026,892
2. 固定資産	
(1)基本財産	
基本財産定期預金	358,344,700
基本財産投資有価証券	509,655,300
基本財産合計	868,000,000
(2)特定資産	
記念基金	9,170,944,100
退職給付引当資産	46,838,100
東北復興支援事業資産	10,000,000
特定資産合計	9,227,782,200
(3)その他固定資産	
投資有価証券	20,508,358
什器備品	8
その他固定資産合計	20,508,366
固定資産合計	10,116,290,566
資産合計	10,398,317,458
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	41,492,028
預り金	716,682
賞与引当金	3,213,651
流動負債合計	45,422,361
2. 固定負債	
退職給付引当金	46,838,100
固定負債合計	46,838,100
負債合計	92,260,461
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
寄付金	10,010,000,000
基本財産運用益	68,000,000
特定資産運用益	552,008,000
特定資産評価差額金	△581,063,900
指定正味財産合計	10,048,944,100
(うち基本財産への充当額)	(868,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(9,180,944,100)

(単位：円)

科 目	当 年 度
2. 一般正味財産	257, 112, 897
正味財産合計	10, 306, 056, 997
(うち基本財産への充当額)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)
負債及び正味財産合計	10, 398, 317, 458

(注) 貸借対照表においては、「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正
内閣府公益認定等委員会)の採用初年度であり、前年度の数値を記載していない。

正味財産増減計算書

平成25年4月1日 から 平成26年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	324,035
基本財産受取利息	324,035
特定資産運用益	341,710,447
特定資産受取利息	10,658
記念基金受取利息	245,579,789
記念基金売却益	96,120,000
有価証券償還益	5,286,000
有価証券償還益	5,286,000
雑収益	1,261,331
受取利息	761,031
雑収益	500,300
経常収益計	348,581,813
(2) 経常費用	
事業費	240,430,425
役員報酬	8,337,000
給与手当	41,794,238
法定福利費	6,735,924
退職給付費用	2,143,349
賃金	1,255,699
職員厚生費	672,983
会議費	1,450,272
旅費交通費	7,823,752
通信運搬費	2,347,236
広告費	771,750
減価償却費	5,144
消耗什器備品費	86,108
消耗品費	2,986,281
印刷製本費	2,947,510
光熱水料費	3,377,663
役務費	490
委託費	45,836,641
賃借料	5,336,677
使用料	2,870,716
諸謝金	5,155,759
租税公課	111,573
支払負担金・会費	48,022,101
支払助成金	9,363,000
支払手数料	845,971

(単位：円)

科 目	当 年 度
顕彰賞金	40,000,000
雑費	152,588
管理費	86,550,513
役員報酬	3,573,000
給与手当	37,277,219
法定福利費	6,770,732
退職給付費用	1,945,451
賃金	538,157
職員厚生費	610,845
会議費	621,546
旅費交通費	3,353,037
通信運搬費	1,005,959
広告費	330,750
減価償却費	2,205
消耗什器備品費	36,904
消耗品費	1,279,837
印刷製本費	1,263,219
光熱水料費	1,447,570
役務費	210
委託費	19,644,275
賃借料	2,287,147
使用料	1,230,309
保険料	246,460
諸謝金	2,209,611
租税公課	47,817
支払負担金・会費	400,300
支払手数料	362,559
雑費	65,394
経常費用計	326,980,938
当期経常増減額	21,600,875
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	21,600,875
一般正味財産期首残高	235,512,022
一般正味財産期末残高	257,112,897
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	10,000,000
受取寄付金	10,000,000
基本財産運用益	38,324,035
基本財産受取利息	38,324,035

(単位：円)

科 目	当 年 度
特定資産運用益	531,699,789
記念基金受取利息	435,579,789
記念基金投資有価証券売却益	96,120,000
特定資産評価益	665,305,600
記念基金投資有価証券評価益	665,305,600
一般正味財産への振替	△342,023,824
一般正味財産への振替	△342,023,824
当期指定正味財産増減額	903,305,600
指定正味財産期首残高	9,145,638,500
指定正味財産期末残高	10,048,944,100
Ⅲ 正味財産期末残高	10,306,056,997

(注) 正味財産増減計算書においては、「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正
内閣府公益認定等委員会)の採用初年度であり、前年度の数値を記載していない。

正味財産増減計算書内訳表

平成25年4月1日 から 平成26年3月31日 まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	97,210	226,825	324,035
基本財産受取利息	97,210	226,825	324,035
特定資産運用益	239,189,837	102,520,610	341,710,447
特定資産受取利息	0	10,658	10,658
記念基金受取利息	171,905,837	73,673,952	245,579,789
記念基金売却益	67,284,000	28,836,000	96,120,000
有価証券償還益	0	5,286,000	5,286,000
有価証券償還益	0	5,286,000	5,286,000
雑収益	50,300	1,211,031	1,261,331
受取利息	0	761,031	761,031
雑収益	50,300	450,000	500,300
経常収益計	239,337,347	109,244,466	348,581,813
(2) 経常費用			
事業費	240,430,425	0	240,430,425
役員報酬	8,337,000	0	8,337,000
給与手当	41,794,238	0	41,794,238
法定福利費	6,735,924	0	6,735,924
退職給付費用	2,143,349	0	2,143,349
賃金	1,255,699	0	1,255,699
職員厚生費	672,983	0	672,983
会議費	1,450,272	0	1,450,272
旅費交通費	7,823,752	0	7,823,752
通信運搬費	2,347,236	0	2,347,236
広告費	771,750	0	771,750
減価償却費	5,144	0	5,144
消耗什器備品費	86,108	0	86,108
消耗品費	2,986,281	0	2,986,281
印刷製本費	2,947,510	0	2,947,510
光熱水料費	3,377,663	0	3,377,663
役務費	490	0	490
委託費	45,836,641	0	45,836,641
賃借料	5,336,677	0	5,336,677
使用料	2,870,716	0	2,870,716
諸謝金	5,155,759	0	5,155,759
租税公課	111,573	0	111,573
支払負担金・会費	48,022,101	0	48,022,101
支払助成金	9,363,000	0	9,363,000
支払手数料	845,971	0	845,971

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
顕彰賞金	40,000,000	0	40,000,000
雑費	152,588	0	152,588
管理費	0	86,550,513	86,550,513
役員報酬	0	3,573,000	3,573,000
給与手当	0	37,277,219	37,277,219
法定福利費	0	6,770,732	6,770,732
退職給付費用	0	1,945,451	1,945,451
賃金	0	538,157	538,157
職員厚生費	0	610,845	610,845
会議費	0	621,546	621,546
旅費交通費	0	3,353,037	3,353,037
通信運搬費	0	1,005,959	1,005,959
広告費	0	330,750	330,750
減価償却費	0	2,205	2,205
消耗什器備品費	0	36,904	36,904
消耗品費	0	1,279,837	1,279,837
印刷製本費	0	1,263,219	1,263,219
光熱水料費	0	1,447,570	1,447,570
役務費	0	210	210
委託費	0	19,644,275	19,644,275
賃借料	0	2,287,147	2,287,147
使用料	0	1,230,309	1,230,309
保険料	0	246,460	246,460
諸謝金	0	2,209,611	2,209,611
租税公課	0	47,817	47,817
支払負担金・会費	0	400,300	400,300
支払手数料	0	362,559	362,559
雑費	0	65,394	65,394
経常費用計	240,430,425	86,550,513	326,980,938
当期経常増減額	△1,093,078	22,693,953	21,600,875
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△1,093,078	22,693,953	21,600,875
一般正味財産期首残高	164,858,415	70,653,607	235,512,022
一般正味財産期末残高	163,765,337	93,347,560	257,112,897
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
基本財産運用益	11,497,210	26,826,825	38,324,035
基本財産受取利息	11,497,210	26,826,825	38,324,035

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
特定資産運用益	372,189,842	159,509,947	531,699,789
記念基金受取利息	304,905,842	130,673,947	435,579,789
記念基金投資有価証券売却益	67,284,000	28,836,000	96,120,000
特定資産評価益	465,713,920	199,591,680	665,305,600
記念基金投資有価証券評価益	465,713,920	199,591,680	665,305,600
一般正味財産への振替	△239,287,047	△102,736,777	△342,023,824
一般正味財産への振替	△239,287,047	△102,736,777	△342,023,824
当期指定正味財産増減額	620,113,925	283,191,675	903,305,600
指定正味財産期首残高	6,401,946,950	2,743,691,550	9,145,638,500
指定正味財産期末残高	7,022,060,875	3,026,883,225	10,048,944,100
Ⅲ 正味財産期末残高	7,185,826,212	3,120,230,785	10,306,056,997

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 当事業年度から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
- ①満期保有目的の債券…償却原価法(定額法)によっている。
- ②満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券
時価あるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
その他の固定資産
什器備品…定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金
職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、
期末要支給額を計上している。
賞与引当金
職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	358,344,700	30,000,000	358,344,700
投資有価証券	800,000,000	29,655,300	320,000,000	509,655,300
小 計	830,000,000	388,000,000	350,000,000	868,000,000
特定資産				
記念基金	8,315,638,500	4,497,838,600	3,642,533,000	9,170,944,100
退職給付引当資産	42,749,300	4,088,800	0	46,838,100
東北復興支援事業資産	0	10,000,000	0	10,000,000
小 計	8,358,387,800	4,511,927,400	3,642,533,000	9,227,782,200
合 計	9,188,387,800	4,899,927,400	3,992,533,000	10,095,782,200

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金 (注)	358,344,700	(358,344,700)	(0)	-
投資有価証券	509,655,300	(509,655,300)	(0)	-
小 計	868,000,000	(868,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金 (注)	9,170,944,100	(9,170,944,100)	(0)	(0)
退職給付引当資産	46,838,100	-	-	(46,838,100)
東北復興支援事業資産	10,000,000	(10,000,000)	(0)	(0)
小 計	9,227,782,200	(9,180,944,100)	(0)	(46,838,100)
合 計	10,095,782,200	(10,048,944,100)	(0)	(46,838,100)

(注) 期限前解約時の清算金条項の付された定期預金が基本財産に358,000,000円、記念基金に190,000,000円含まれている。

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第426回東京電力債	480,000,000	489,552,000	9,552,000
第328回利付国債	29,655,300	30,102,420	447,120
小 計	509,655,300	519,654,420	9,999,120
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	101,173,300	101,930,000	756,700
第8回パナソニック社債	104,953,031	108,060,000	3,106,969
第42回ソフトバンク社債	101,221,819	101,177,000	(44,819)
第7回ニプロ社債	103,897,039	104,190,000	292,961
第20回みずほ銀行劣後債	103,532,773	105,420,000	1,887,227
第41回阪急阪神HD社債	105,730,396	108,110,000	2,379,604
小 計	620,508,358	628,887,000	8,378,642
合 計	1,130,163,658	1,148,541,420	18,377,762

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単価:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	324,035
記念基金受取利息	245,579,789
記念基金売却益	96,120,000
合 計	342,023,824

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,931,707	3,213,651	2,931,707	0	3,213,651
退職給付引当金	42,749,300	4,088,800	0	0	46,838,100

財産目録

平成26年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金	現金	手元保管	運転資金として 237,302	
		普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として 18,154,377	
			三菱東京UFJ銀行大阪公務部	運転資金として 3,656,863	
			三井住友銀行大阪公務部	運転資金として 8,293,760	
			みずほ銀行大阪支店	運転資金として 137,046,408	
	現金預金合計			167,388,710	
未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	114,566,182		
前払金	(公財)公益法人協会	法人運営に供する平成26年度年会費前払分	72,000		
流動資産合計				282,026,892	
(固定資産)	基本財産	定期預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 344,700	
				うち公益目的保有財産である 103,410	
				うち管理目的の財源として使用する財産である 241,290	
		三井住友銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 358,000,000		
			うち公益目的保有財産である 107,400,000		
			うち管理目的の財源として使用する財産である 250,600,000		
	特定資産	投資有価証券	第426回東京電力債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 509,655,300	
				うち公益目的保有財産である 152,896,590	
				うち管理目的の財源として使用する財産である 356,758,710	
		基本財産合計			868,000,000
		記念基金	投資有価証券	第426回東京電力債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 7,555,889,100
					うち公益目的保有財産である。 5,289,122,370
うち管理目的の財源として使用する財産である。 2,266,766,730					
定期預金	三井住友銀行大阪公務部	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 600,000,000			
		うち公益目的保有財産である。 420,000,000			
		うち管理目的の財源として使用する財産である。 180,000,000			
定期預金	三井住友銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 190,000,000			
		うち公益目的保有財産である。 133,000,000			

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
その他固定 資産	普通預金	みずほ銀行大阪支店	うち管理目的の財源として使用する財産である。	57,000,000	
			運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	825,055,000	
			うち公益目的保有財産である。	577,538,500	
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	247,516,500	
	退職給付引当資産	りそな銀行大阪公務部 普通預金	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	46,838,100	
	東北復興支援事業資産	三菱東京UFJ銀行大阪公務部 普通預金	公益目的保有財産であり、東北復興支援事業の財源として管理している。	10,000,000	
				特定資産合計	9,227,782,200
	投資有価証券	第3回日本電産社債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	20,508,358	
			うち公益目的保有財産である。	14,355,850	
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	6,152,508	
什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8		
固定資産合計				10,116,290,566	
資産合計				10,398,317,458	
(流動負債)	未払金	平成25年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	41,492,028	
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	716,682	
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	3,213,651	
流動負債合計				45,422,361	
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員6名に対する退職金の支払いに備えたもの	46,838,100	
固定負債合計				46,838,100	
負債合計				92,260,461	
正味財産				10,306,056,997	

平成 25 年 度

IV. 監 査 報 告 書

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

平成26年5月28日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会長 今井 敬 様

監事 北山 諒一



監 査 報 告 書

定款第11条第1項の規定に基づき、平成25年度決算にかかる事業報告書及び決算報告書並びに関係諸帳票、証拠書類について監査したところ、その事業執行及び財務諸表の内容は、適正であることを認めます。

平成26年5月29日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会 長 今 井 敬 様

監 事 堀 井 良 般 

監 査 報 告 書

定款第11条第1項の規定に基づき、平成25年度決算にかかる事業報告書及び
決算報告書並びに関係諸帳票、証拠書類について監査したところ、その事業執行及
び財務諸表の内容は、適正であることを認めます。